

令和 8 年 5 月 2 1 日
生活安全企画課
総合犯罪防止対策室

令和 7 年中の電話でお金詐欺（特殊詐欺）被害者に対する アンケート調査結果

令和 7 年中に長野県内で認知した電話でお金詐欺（特殊詐欺）被害者 276 人のうち、協力が得られた 226 人を対象に、同詐欺に関する意識等についてアンケート形式で調査を実施したものの、令和 7 年中の統計のため SNS 型投資・ロマンス詐欺は含まれていません。

アンケート結果概要（課題）

- 「自分はだまされないと考えていた」との回答が約 9 割
その理由は「自分には関係ないと思っていた」、「見破る自信があった」との無関心や過信が原因。
誰もが被害に遭う可能性があるとの危機意識・当事者意識の醸成が必要です。
- 「誰にも相談できなかった」との回答が約 9 割
被害前に誰かに相談した方は約 1 割で、9 割近くの方が誰にも相談できずに被害に遭っていました。
相談できなかった理由は、「犯人を信じていた」が約 7 割、「犯人から誰にも相談するなと指示された」が約 1 割を占めました。
犯人の巧みな話術により、誰にも相談できない環境を作られてしまいます。
一人では対応せず、必ず誰かに相談しましょう。
少しでも不安に思うことがあれば、警察相談専用電話「#9110」にご相談ください。

○警察庁推奨アプリで犯人からの電話をシャットアウト!!

みんなで
警察庁推奨 詐欺の電話はアプリでブロック!
無料 特殊詐欺対策アプリ
国際電話をブロック* 詐欺電話をブロック 最新手口を把握
ダウンロードはこちら ▶▶▶ 警察庁・SOS47 特殊詐欺対策ページ

詐欺対策 by NIT タウンページ
詐欺バスター Lite by TRENDI

警察庁 National Police Agency

何も対策をしていないと、犯人の言葉巧みな話術によってだまされてしまいます。
警察庁推奨アプリを導入し、犯人からの電話をシャットアウトしましょう。

インストールはこちら
警察庁・SOS47
特殊詐欺対策ページ

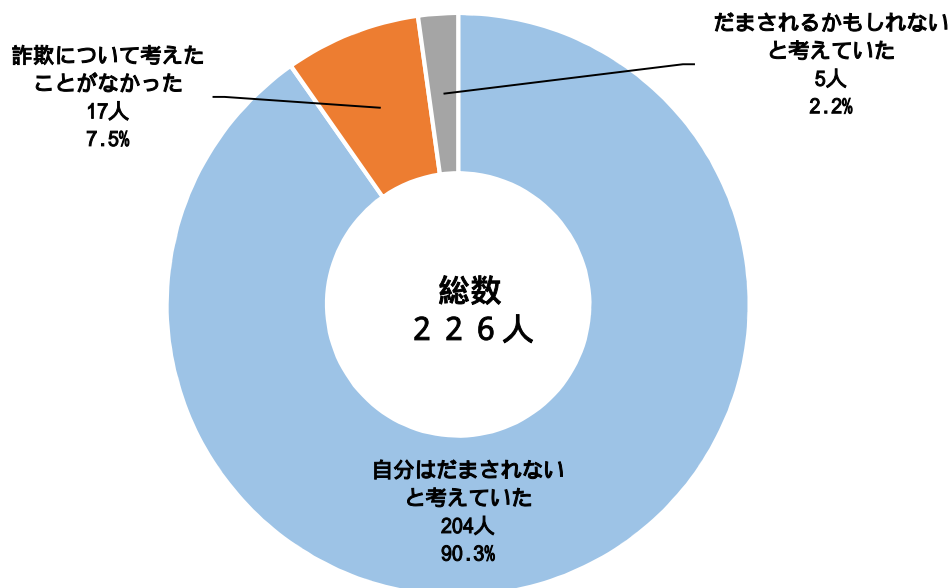


「自分はだまされないと考えていた」が約9割

【電話でお金詐欺（特殊詐欺）に対する意識】

電話でお金詐欺（特殊詐欺）に対する意識について、「自分はだまされないと考えていた」との回答が204人（90.3%）でした。

この他、「だまされるかもしれない」と防犯意識を持っていても、だまされてしまった人が5人（2.2%）いました。

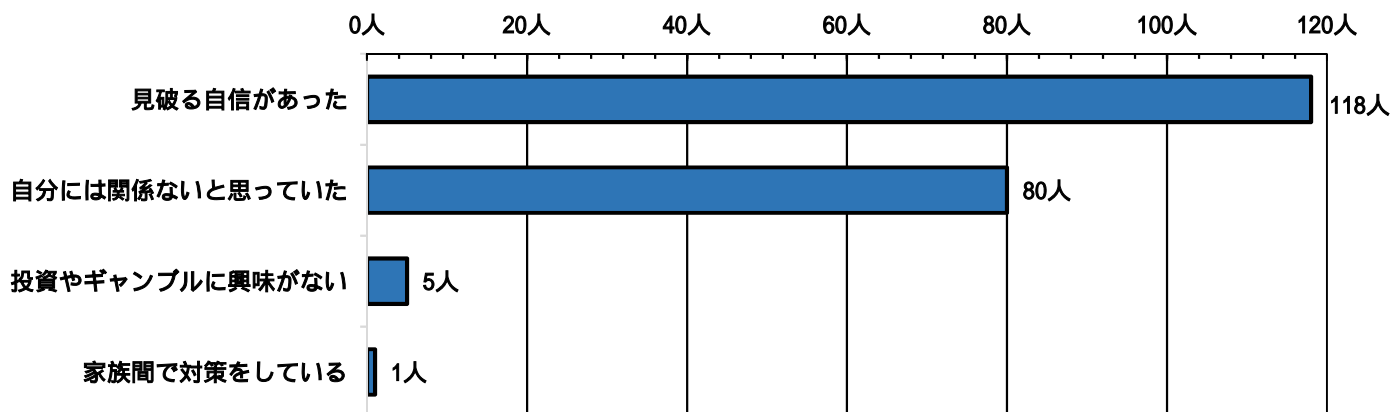


自分が被害に遭う可能性を過小評価して、日頃の備えを疎かにしていませんか？
だまされるかもしれないと思い、日頃から対策を取り、警戒しておくことが重要です。

【なぜだまされないと考えていたか？】（複数回答）

「自分はだまされないと考えていた」と回答した204人のうち、その理由として最も多かった回答は「見破る自信があった」が118人、次いで「自分には関係ないと思っていた」が80人でした。

この他の回答として「投資やギャンブルに興味がない」が5人、「家族間で対策をしている」が1人でした。

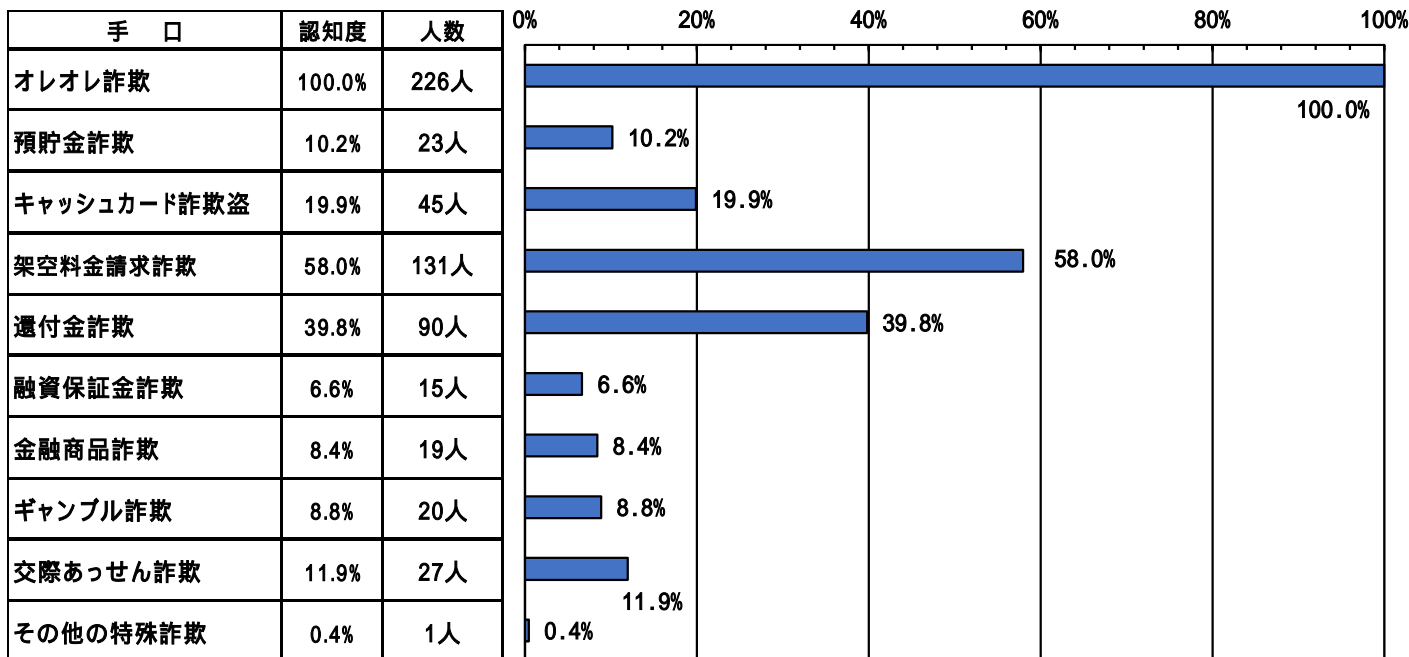


他人事と思わず、誰もが被害に遭うかもしれないという危機意識・当事者意識を持ちましょう。
(言葉巧みにだましてきますので複数の対策を取りましょう。)

電話でお金詐欺（特殊詐欺）知っていますか？

【電話でお金詐欺（特殊詐欺）の手口に関する知識（手口の認知度）】 （複数回答）

回答者が知っていた電話でお金詐欺（特殊詐欺）の手口のうち、オレオレ詐欺については226人(100%)と全ての回答者が知っていたほか、架空料金請求詐欺は131人(58.0%)、還付金詐欺は90人(39.8%)と半数近くが知っていた一方、ギャンブル詐欺は20人(8.8%)、融資保証金詐欺は15人(6.6%)、金融商品詐欺は19人(8.4%)と認知度が低い結果でした。

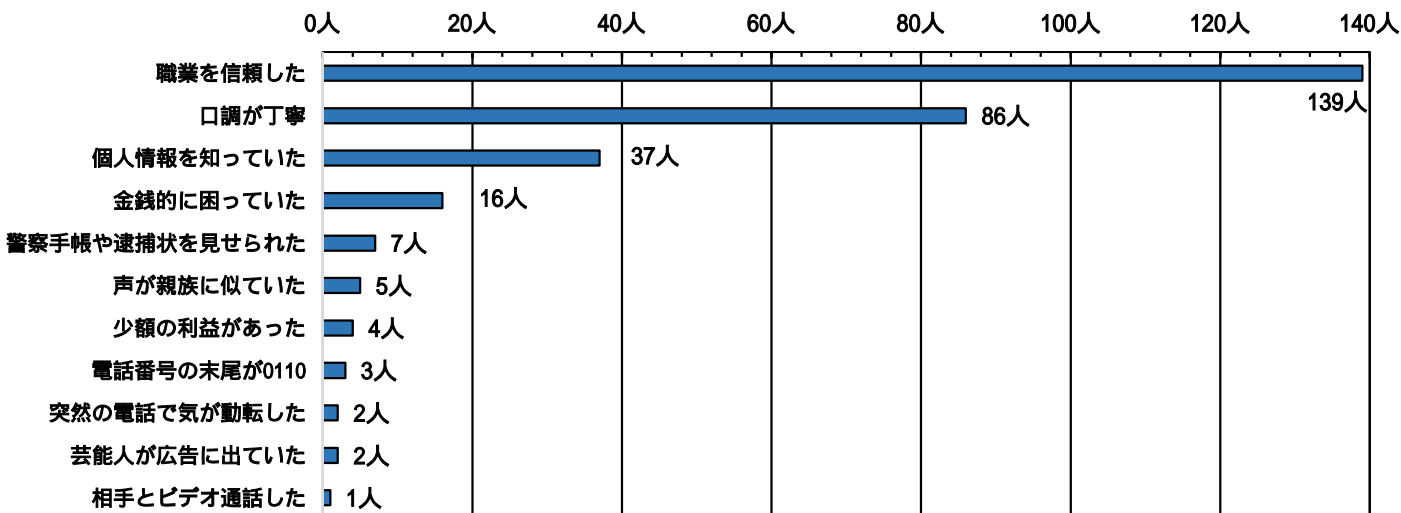


【犯人の話を信じた理由】（複数回答）

回答者が犯人の話を信じた理由は、「犯人が装った職業を信頼した」が最多の139人で、次いで「口調が丁寧」が86人、「個人情報を知っていた」が37人でした。

この他の回答として、ニセ警察詐欺では、「警察手帳や逮捕状を見せられた」が7人、「電話番号の末尾が0110だった」が3人、「相手とビデオ通話した」が1人でした。

副業名目の架空料金請求詐欺では、「金銭的に困っていた」が16人、「少額の利益があった」が4人、「芸能人が広告に出ていた」が2人でした。

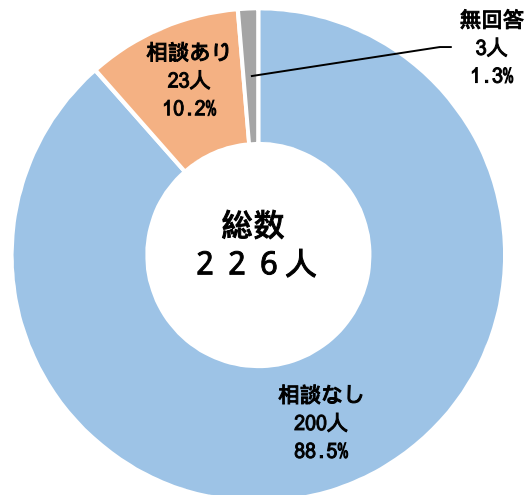


手口を知っていても、犯人の巧みな話術でだまされてしまうので、各種電話対策機器を設置するなどして、犯人からの電話を受けない対策をしておくことが重要です。

一人で考え込まないで誰かに相談しましょう

【被害時の第三者への相談状況】

被害前に誰かに相談したという回答者は23人（10.2%）にとどまり、9割近くの回答者が周囲に相談していない、あるいは、相談できず、被害に遭っていました。

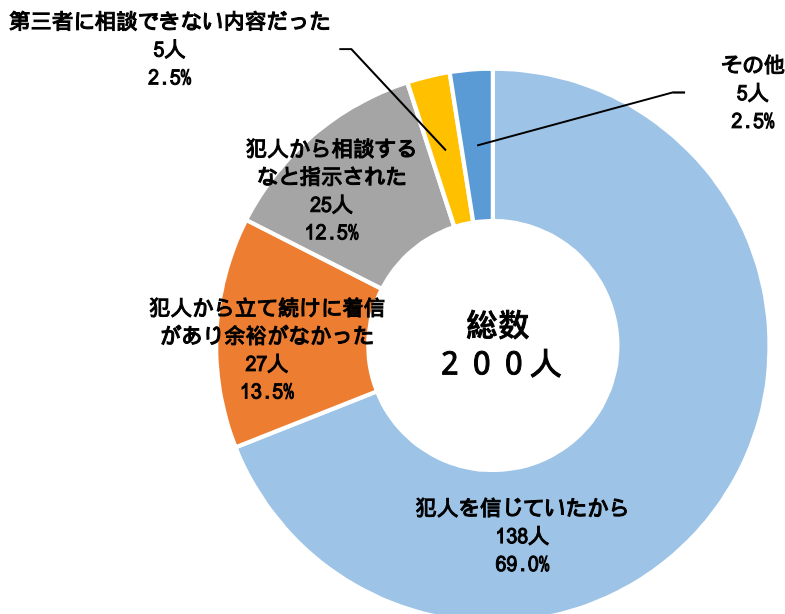


予期せぬお金の話には1人で対応しようとせず、誰かに相談しましょう。日頃から、困り事を相談できる人間関係づくりが重要です。

【なぜ誰にも相談できなかったのか？】

誰にも相談できずに被害に遭ったと回答した200人のうち、その理由として最も多かった回答は、「犯人を信じていたから」が138人（69.0%）であり、次いで「犯人から立て続けに着信があり、誰かに相談する余裕がなかった」が27人（13.5%）、「犯人から誰にも相談するなと指示された」が25人（12.5%）でした。

その他の回答としては、「相談する相手がいない」、「迷惑をかけたくない」などがありました。



渦中の当事者は、犯人の巧みな話術で詐欺と気が付きにくい状態になってしまいますが、第三者の方は不審点に気が付きやすいものです。

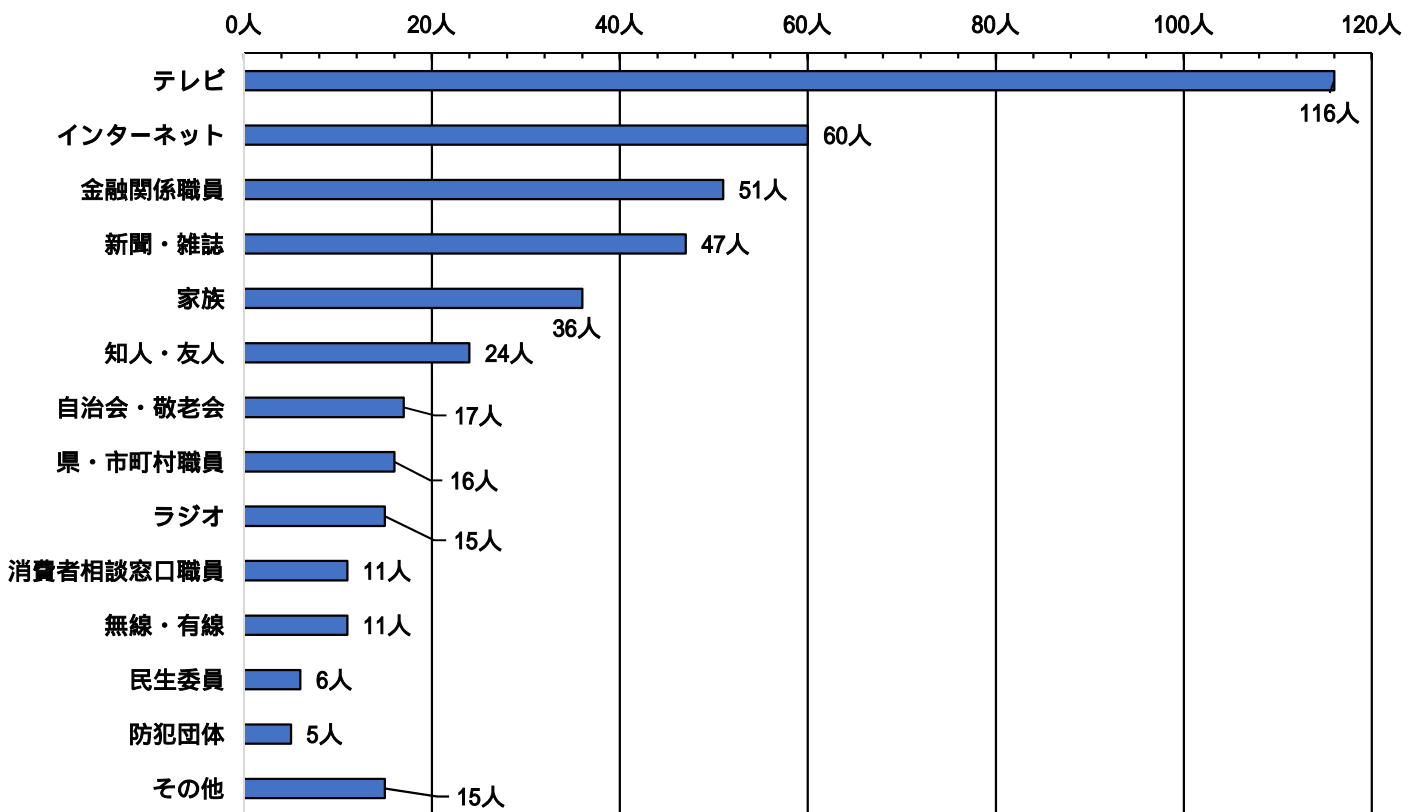
一人で悩む前に、まず、誰かに相談しましょう。

社会全体で電話でお金詐欺被害を防止する機運を醸成しましょう

【どのような方法で注意喚起を受けていればだまされなかった？】 (複数回答)

事前にどのような注意喚起を受けていればだまされなかったと思うかという質問について、最も多かった回答は、テレビによる注意喚起が最多の116人であり、次いでインターネットが60人、金融関係職員が51人、新聞・雑誌が47人でした。

その他の回答としては、街頭のデジタルサイネージや看板、職場などがありました。



家族や友人等の身近なところからの注意喚起を望む被害者も多くいるので、日頃から詐欺被害防止の話題を取り上げるなどしていただき、社会全体で電話でお金詐欺防止に向けた機運を醸成しましょう。